

日華・日漢辞典からみた日中同形語記述の問題点 ——同形類義語を中心に——

林 玉 恵*

キーワード: 記述, 同形語, 同形類義語, 日華・日漢辞典, 問題点

要 旨

いままで日中同形語に関する多くの研究は、意味上の類似と相違に着目して行われてきたが、この類の研究はわれわれの言語生活にどのように応用できるのか、あるいはどのように反映されるのかについて、あまり論じられていない。本稿では、中国語を母国語とする日本語学習者がよく使う日中の対訳辞典、特に台湾で出版された日華・日漢辞典を対象にして、日中同形語のタイプの中で、最も問題になりやすい、いわゆる同形類義語の記述の実態における問題点を検討した。ただし、同形類義語はその意味の重なり具合によって、さらに「日本語に他の意味があるもの」、「中国語に他の意味があるもの」、「日中両言語とも他の意味があるもの」に分類することができる。今回は、まづ「愛情」、「会計」、「活発」、「犠牲」、「深刻」、「適当」、「反対」、「必要」、「表情」、「訪問」といった「日本語に他の意味があるもの」の同形類義語に絞って記述の問題点を検討した。その結果、意味項目の立て方、訳語の問題、誤訳と不適切な説明といった意味に関する問題が顕著であるが、用例及び典型的な文型の提示、品詞の提示が不十分であるなどといった文法に関する問題も見られる。これら記述の問題点が生じた原因として、次の三つが挙げられる。一つ目は、編纂時に他の辞典を参照した際に、間違った訳語が援用されてしまうことがあるということである。二つ目は数多くの語を網羅的に扱わなければならないため、同形語にかけられる労力と時間に限界があるということである。三つ目は、日本の国語辞典の影響が強く、ややもすると中国人日本語学習者のニーズに応じ切れない場合がある。よって、本稿では現存する日華・日漢辞典における日中同形語の記述は必ずしも十分ではないことを指摘し、より精密な記述方法を試みに提示し、日華・日漢辞典の編集に役立てようとするものである。

1. はじめに

日本語と中国語において、同じ漢字¹によって表記される語は、日中同形語(以下同形語と略

* LIN Yu Hui: 名古屋大学大学院文学研究科日本文学・日本語学専攻。

¹ 日本語を表記する日本の漢字と中国語を表記する中国の漢字との間には、字体の差異が存在しているが、本稿では敢えて現行の細かい形の違いを無視して、「もとの字(康熙字典体に準じるもの)が同じであるも

す)と呼ばれる。同形語の数²が非常に多いことと、意味上の細かい差が存在するために、これらの語を体系的に意味記述を行うことは、極めて困難である。それゆえ、日中の対訳辞典に載っている同形語の全部を処理することは容易なことではない。しかし、日中両国における中国語・日本語学習者が増え続けている今日では、理想的な日中の対訳辞典が要求されている。このような要求に応じて、すでに出版されている日中の対訳辞典も少なくないが、果たしてこれらの同形語に関する記述が十分であるのか、使用者にとって使いやすいのか、などについて検討しなければならない。

日中の対訳辞典は大きく分ければ、日本語から中国語への日中・日華・日漢辞典と、中国語から日本語への中日・漢日辞典との二種類が挙げられる。この二種類のうち、日中・日華・日漢辞典の歴史は中日・漢日辞典より長く、出版された量も多いので、本稿では、まず、前者を対象にして考察することにする。日華・日漢辞典のなかには、さらに中国大陆で出版されたものと、台湾で出版されたものがあるが、筆者は台湾出身の日本語学習者であり、学習過程で台湾で出版された日華・日漢辞典を使用してきた。その結果、特に同形語についての記述は不十分であると感じるに至った。よって、本稿では、台湾で出版された日華・日漢辞典を対象として取り扱う。ただし、必要に応じて同種類の日中辞典及び大陸の日漢辞典を用いることがある。

本稿の目的は、日華・日漢辞典を分析することによって同形語に関する記述の実態における問題点を指摘し、合理的な意味記述を提示しつつ、日華・日漢辞典の編集に役立てようとするものである。研究方法としては、日中両言語における同形語の類似点と相違点を見極めながら、日華・日漢辞典における見出し語の中国語訳と用例を検証することによって、考察を進めたい。

2. 研究対象

2-1. 日華・日漢辞典の呼称について

台湾で出版された日本語から中国語への日中の対訳辞典には、日華辞典と称するものと日漢辞典と称するものがあるが、両者は辞典の性質、内容及び用途からみて、全く同じものを指して

の」を同形語と判定し、論を進めることとする。なお、同形語という場合、同形である二語の発音の異同は無視して考える。つまり日本語の漢語を対象とするだけではなく、広い意味で訓読みの和語も含めることとする。

2 荒屋 (1983) は香坂順一編『中国語常用語辞典』(収録語彙約 3,800)中における同形語を、久松潜一・佐藤謙三編『角川国語辞典』に収録される範囲で選定して、約 50% (約 1,900 語)が同形語であるとした。曾根 (1988) によれば、『現代汉语頻率詞典』(『現代漢語頻率詞典』)における「頻率最高的前 8000 个詞詞表」(「頻率最高的前 8000 個詞表」)中にみられる同形語の比率は 40.22%である。また、橋 (1994) は『汉语水平词汇大綱』(『漢語水平詞彙大綱』)における同形語の比率を 53.08%とし、刘 (1998) は『HSK 词汇大綱』(『HSK 詞彙大綱』)における「甲乙丙三級」中にみられる同形語の比率は 57%であるとしている。さらに、王 (1998) によれば、『現代国語辞典』における同形語の比率は 41%である。以上から、同形語は大体 40%~57%と推測できる。

表1 日華・日漢辞典の呼称

西暦	1930	1949 (中華人民共和国成立)	現在
中国大陸	日華辞典 例:『標準日華辞典』(1931),『日華辞典』(1934),『綜合日華大辞典』(1936) など	日漢辞典 例:『日漢辞典』(1959),『新日漢辞典』(1979),『詳解日漢辞典』(1983) など	
	日華辞典 例:『日華大辞典』(第一巻は 1936 年,第二巻は 1937 年,第三巻は 1938 年に出版された)	日中辞典 例:『現代日中辞典』(1973),『岩波日中辞典』(1983),『日中辞典』(1987) など	
台湾	日華辞典 日本もしくは中国大陸の呼称に従う	日華辞典もしくは日漢辞典 例:●『詳解日華大辞典』(1965),『大新明解日華辞典』(1983),『萬人現代日華辞典』(1985) など ●『簡明日漢辞典』(1993),『現代日漢大辞典』(1994),『新時代日漢辞典』(1997) など	

注) 囲み線は日中の対訳辞典の呼称を示す。

いる。なぜこのような二通りの呼称があるのか、これら辞典の序文からは窺い知ることはいない。しかし、いままで出版されたこの類の辞典の書名(表1を参照)からみると、次のようなことがわかる。1949年新中国(中華人民共和国)の成立前には、日本語から中国語への日中の対訳辞典を日華辞典と称したが、それ以降は、日漢辞典に変えた。これは、おそらく新中国成立以降、中国語を“汉语”³⁾(漢語)と呼ぶようになったからであろう。しかし、台湾で出版された同種類の辞典の書名はこれに連動しなかった。したがって、1949年以降現在に至るまで出版された辞典には、日華辞典と日漢辞典との二通りの呼称が共存しており、1949年以降に出版された辞典でも日華辞典と称するものが圧倒的に多い。ここで注意すべきことは、台湾で出版された日華・日漢辞典は台湾人の手によるものもあれば、中国大陸の編集者によるものもあるということである。また日本人が編集したものもある。さらに、両国の協力で作られた辞典もある。

2-2. 日華・日漢辞典について

本稿で考察の対象とする日華・日漢辞典は、現在台湾で広く使われているものであり、本稿で使用する略称とともに表2に示す。これらの辞典はいわゆる小型辞典である。収録語数は、『萬人現代日華辞典』が約六万六千語、『新時代日漢辞典』が約八万語、『永大簡明日華辞典』は約八万五千語であるが、『大新明解日華辞典』は辞典の序文などから窺うことはできない。辞典の大きさから推測すると、六万語から八万語の間であろう。

³⁾ 本稿では日本の漢字を「」で、中国の漢字を“ ”で表し、対照させることとする。なお、台湾の中国語は繁体字を用いるため、本稿は繁体字で、中国大陸の場合は簡体字のままで示す。

表2 考察の対象とする日華・日漢辞典

年代	書名	略称	編者	出版社	収録語数
1983	大新明解日華辞典	『大新』	千田勝己主編	大新書局	?
1985	萬人現代日華辞典	『萬人』	謝逸朗主編	萬人出版社有限公司	約 66,000
1998	永大簡明日華辞典	『永大』	劉元孝主編	永大書局	約 85,000
2000	新時代日漢辞典 ⁴	『新時代』	陳伯陶主編	大新書局	約 80,000

2-3. 日中同形語のタイプについて

同形語は意味が同じでも、文法的な用法、運用範囲、修飾範囲と対象、ニュアンスなどが違う場合が少なくない。分類する際、依拠する辞書及び調査者の語義判断の基準は必ずしも同じではないので、同じ語でも観点により異なるグループに分類されることが珍しくない。しかし、いままで同形語に関する研究と分類は、一応の基準として文化庁（1978）『中国語と対応する漢語』（以下『対応』と略す）に従ってきた。『対応』が出版されて以来、各グループに属する語が適当かどうかについて、さまざまな批判⁵も受けてきたが、その分類自体は同形語を見分ける際の便宜的なものである。『対応』の分類は、いわゆる概念的意味(辞書的意味)⁶に基づいて行われたものである。その分類は次のようである。

Same(S): 日中両国語における意味が同じか、または、きわめて近いもの。

Overlap(O): 日中両国語における意味が一部重なってはいるが、両者の間にずれのあるもの。

Different(D): 日中両国語における意味が著しく異なるもの。

Nothing(N): 日本語の漢語と同じ漢字語が中国語に存在しないもの。

言い換えれば、「S」は同形同義語、「O」は同形類義語、「D」は同形異義語である。「N」は同形語ではないので、ここでは検討しないことにする。同形類義語の「O」は同形同義語の「S」と同形異義語の「D」と両方の場合があるので、同形語の中で一番厄介なものである。これらは記述の際、最も問題になりやすいと思われるので、本稿では、この「O」類の同形語を対象にして、日華・日漢辞典記述の問題点を考察することにする。ただし、一口に同形類義語といっても、その意味の重なり具合によっていろいろなタイプに分けられる。『対応』では、「O」類の同形語を意味の重なり具合によって分類しなかったが、「O」類の同形語にさらに「日本語に他の意味があるもの」、「中国語に他の意味があるもの」、「日中両言語とも他の意味があるもの」に分類することができる。注意すべきことは、本稿でいう意味の重なり具合とは、その語の意味と運用範囲を

⁴ 『新時代』（修訂版）は1994年に出版されたが、本稿で扱うのは同書の2000年修訂版である。

⁵ 参考文献の荒川（1979）、周（1986）、飛田・呂（1986）を参照。

⁶ 香坂順一・太田辰夫共編『現代中日辞典』増訂版（1961、光生館）及び香坂順一他編『現代日中辞典』（1973、光生館）である。

含むものである。

日華・日漢辞典を対象にする場合、「日本語に他の意味があるもの」の同形語の記述は問題が起こりやすいと思うので、まずこれらの語を調査する。「日本語に他の意味があるもの」の同形語に限っても数が少なくないので、調査対象とする語を限定しなければならない。そこで、本稿では調査する語はわれわれの言語生活において、重要度が高い、あるいは不可欠なものに絞りたい。具体的な語例は『新明解国語辞典 第五版』（三省堂 1997）の「重要語」3,439 の中の二字同形語 1,357 語から取り上げたものである。これらの「重要語」は多くの語彙調査の基本語⁷にも一致しているので、調査資料として問題はないと思われる。今回は筆者が調査した語の中で「愛情」、「会計」、「活発」、「犠牲」、「深刻」、「適当」、「反対」、「必要」、「表情」、「訪問」の問題点が顕著であったため、これらの語に絞って検討していく。

3. 語義判断で使用する辞典

語の意味・用法を確かめるため、辞典を引くのは一般的である。しかし、各辞典の編纂目的によって、同じ語の記述は必ずしも同じではないので、一冊か二冊の辞典の使用は客観性が問われる可能性がある。といってもすべての辞典を網羅的に使用することは不可能に近い。よって、本稿では、現在よく使われている日本の国語辞典と中国語辞典を用い、それ以外に日中・中日の対訳辞典・対応集・用例集なども使用することにする。本稿での同形語の語義判断で使用する辞書は次の通りである。なお、辞典は編者の五十音順によって配列した。

- 愛知大学中日大辞典編纂処（1987）『中日大辞典』増訂第二版（1968年初版）、大修館書店
 大野晋・浜西正人（1981）『角川類語新辞典』、角川書店
 樺島忠夫他編（2001）『福武国語辞典』（1989年初版）、ベネッセコーポレーション
 金田一春彦・池田弥三郎編（1988）『学研国語大辞典 第二版』（1978年第一版）、学習研究社
 金田一春彦編（2001）『学研現代新国語辞典 改訂新版』（1994年初版）、学習研究社
 見坊豪紀他編（2001）『三省堂国語辞典 第五版』（1960年初版）、三省堂
 康玉華他編 興水優監修（2000）『中国語基本語辞典』、東方書店
 香坂順一編著（1982）『現代中国語辞典』、光生館
 国語日報出版中心主編（2000）『新編国語日報辞典』、国語日報社
 三省堂編修所（1984）『広辞林 第六版』、三省堂

⁷ 例えば、『外国人に対する日本語教育の振興に関する報告集——昭和 58 年 7 月——』所収の「語彙標準表」（文化庁文化語部国語課）で選定分類された「第一水準約 3000 語」と「第二水準約 5000 語」、『日本語教育のための基本語彙調査——1984——』（国立国語研究所）の「基本語二千」と「基本語六千」、『品別別、レベル別 1 万語語彙分類集』（株式会社専門教育 1992）などである。

- 尚学図書編 (1981) 『国語大辞典』, 小学館
- 小学館辞典編集部編 (1994) 『使い方の分かる 類語例解辞典』, 小学館
- 大连外国语学院编《新日汉辞典》编写组编 (1979) 『新日汉辞典』, 辽宁人民出版社
- 中国社会科学院语言研究所词典编辑室编 (1996) 『现代汉语词典 修订本』, 商务印书馆
- 中文大辞典編輯委員會編 (1962) 『中文大辭典』, 中國文化研究所
- 張淑榮編 / 徳田武校閱 (1987) 『中日漢語対比辞典』, ゆまに書房
- 陈涛主编 (1959) 『日汉辞典』, 商务印书馆
- 新村出 (1998) 『広辞苑 第五版』 (1955 年第一版), 岩波書店
- 西尾実他編 (2000) 『岩波国語辞典 第 6 版』 (1963 年第 1 版), 岩波書店
- にほんごの会編集 (1995) 『日本語を学ぶ人の辞典 英語・中国語訳つき』, 新潮社
- 日本大辞典刊行会編集 (1972) 『日本国語大辞典』, 小学館
- 林巨樹監修 (2001) 『現代国語例解辞典(第三版)』 (1985 年第一版), 小学館
- 林四郎他編 (2000) 『例解新国語辞典 第五版』 (1984 年初版), 三省堂
- 文化庁 (1975) 『外国人のための基本語用例辞典(第二版)』, 大蔵省印刷局
- 北京・對外經濟貿易大學 北京・商務印書館 (1987) 『日中辞典』, 小学館
- 北京・對外經濟貿易大學 北京・商務印書館 (1992) 『中日辞典』, 小学館
- 松村明・三省堂編修所編 (1995) 『大辞林 第二版』 (1988 年初版), 三省堂
- 松村明他編 (2000) 『旺文社国語辞典』 (1960 年初版), 旺文社
- 宮島吉敏・平岡龍城原著 (1965) 『詳解日華大辞典』 鴻儒堂編輯部重修改編, 慶鴻文出版社
- 宮地裕他編 (2001) 『明治書院精選国語辞典 新訂版』 (1994 年初版), 明治書院
- 森岡健二他編 (2000) 『集英社国語辞典 第二版』 (1993 年第一版), 集英社
- 山田俊雄・吉川泰雄 (1981) 『角川新国語辞典』, 角川書店
- 山田俊雄他編 (2000) 『新潮現代国語辞典 第二版』 (1985 年第一版), 新潮社
- 山田忠雄他編 (1997) 『新明解国語辞典 第五版』 (1972 年初版), 三省堂
- 罗竹风主编 (1988) 『汉语大辞典』, 汉语大辞典出版社

4. 日華・日漢辞典からみた日中同形語の記述

4-1. 日華・日漢辞典における日中同形語の記述及びその役割

日華・日漢辞典における日中同形語記述の問題点を検討する前に, まず, その記述を見ながらこれら辞典の役割を考える必要がある。「愛情」と「訪問」を例にして, これら辞典の記述を見てみよう。「愛情」と「訪問」の記述は次のようになっている。なお, 「愛情」と「訪問」の体裁は各辞典の原文のままである。

●各辞典における「愛情」の記述

『大新』(p. 3)⁸

*あいじょう【愛情】(名)愛情; ☆愛情のこもった言葉/充滿愛情的話。回

『萬人』(p. 2)

あいじょう回【愛情】[名] ① 熱愛。愛護。|| ~のこもったことば/極爲親切的話。② 愛情。戀愛。

『永大』(p. 3)

あいじょう【愛情】アイジョー(名)愛情; ※愛情に満ちた家庭/充滿着愛情的家庭。

『新時代』(p. 4)

あいじょう回【愛情】[名] 1. 熱愛。愛護。喜愛。☆仕事に~を持つ/熱愛工作。☆~のこもった手紙/極爲親切的信。☆彼は両親の~を一身に受けて成長した/他在雙親的愛護下長大成人。2. 愛情。戀愛。☆彼にはのかな~を抱く/對他懷有一些愛戀之情。

●各辞典における「訪問」の記述

『大新』(p. 1313)

*ほうもん【訪問】(名・他サ)訪問, 拜訪; ☆昨日友人の訪問を受けた/昨天有友人來訪; ☆大使館に大使を訪問する/到大使館去拜訪大使; ~ぎ【訪問着】(名)會客的衣服(常指女子的顏色花樣鮮艷的和服)。回

『萬人』(p. 1232)

ほうもん回【訪問】[名・他サ]訪問。| 家庭~をする/做家庭訪問。△公式~/正式訪問。~ぎ回【~着】[名] 簡式婦女(和服的)禮服。

『永大』(収録していない。)

『新時代』(p. 1921)

ほうもん回【訪問】[名・他サ]訪問。☆昨日彼の~を受けた/昨天接受了他的訪問。☆家庭~をする/做家庭訪問。☆友人といっしょに先生の家を~する/與朋友一起去老師家拜訪。△公式~/正式訪問。~ぎ回【~着】[名](在過年或正式訪問時穿的)簡式婦女和服。

	担任の先生の~を受ける	A 国使節団が		~客	ツバメの~が例年より早い
		日本を~する	日本に~する		
訪問	○	○	—	○	—
来訪	○	—	○	—	○

以上の記述からみると、日華・日漢辞典における(同形)語の記述の項目は、見出し語の読み方、アクセントの指示、見出し語の漢字表記、品詞の指示、見出し語の訳語、用例及びその訳文などがあり、語によって(例えば、「訪問」)見出し語からなる複合語の提示、類義語との比較の一覧表などが挙げられる。このような記述内容は、概して、日本の国語辞典の記述に忠実であるといえる。しかし、日本語話者が日本語の意味を知るためにはこれで十分かもしれないが、同形語の間

⁸ 同書でのページ数を示す。

題を考えると、中国人日本語学習者あるいは日本人中国語学習者には同形語の相違などについての記述は欠かせないであろう。また、同形語が多く存在する日中両言語においては、その意味の類似点と相違点、品詞・用法の違いなどを特に明確にすることが誤用を防ぐ上で有効である。したがって、日華・日漢辞典は他の対訳辞典と異なって、同形語についての記述が必要だと思われる。しかし、本稿で取り扱う辞典だけでなく、現存する日華・日漢辞典にも同形語についての記述あるいは説明は全く見られない。ただし、注意すべきなのは、日本から出版された『日中辞典』（小学館 1987）は、少数の語にとどまるが、同形語の相違についての記述が見られるということである。さらなる語数の増加が望まれるが、画期的である。

以上述べたように、同形語についての記述及び説明がないのは日華・日漢辞典における日中同形語記述の大きな問題点の一つといえる。しかし、同形語が数多く存在する、意味上の類似・相違、品詞・用法の違いなどの問題があるため、すべての同形語について記述するのは決して容易なことではないことを付言したい。

4-2. 日華・日漢辞典における日中同形語記述の問題点

今回調査した語の記述の問題点は、「A 訳語の問題」、「B 誤訳と不適切な説明」、「C 意味項目の立て方」などといった意味に関する問題が顕著であるが、「D 用例及び典型的な文型の提示」、「E 品詞の提示が不十分である」などといった文法に関する問題も見られる。「A 訳語の問題」はさらに「A-1 一見出し語・一訳語」、「A-2 説明形式の訳語」、「A-3 訳語を用例に活用していない」などに分けられる。これら語の記述の問題点は表3に示されている。表3から今回調査した語の共通する問題点は、「C 意味項目の立て方」と「D 用例及び典型的な文型の提示」であることがわかる。この二点について詳しく検討する必要があると思われるが、これは別稿に譲りたい。以下、「愛情」、「犠牲」、「深刻」、「訪問」などの語例を用いて A～E の問題点を検討することにする。

表3 日中同形語記述の問題点

			愛情	会計	活発	犠牲	深刻	適当	反対	必要	表情	訪問
意味	A	A-1	○	—	○	○	—	—	—	—	○	○
		A-2	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—
		A-3	○	—	—	○	○	○	○	○	—	○
	B		○	—	—	○	○	○	○	—	—	—
	C		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
文法	D		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	E		—	—	—	—	○	—	○	—	—	—

注) 問題点がある項目に「○」をつけるが、そうでない場合は「—」をつける。

A. 訳語の問題

今回筆者が調査した語の訳語を辞典別に表4にまとめて示した。以下順を追って検討する。

表4 辞典別の訳語

見出し語	訳語			
	「大新」	「萬人」	「永大」	「新時代」
愛情	愛情	① 熱愛, 愛感 ② 愛情, 戀愛	愛情	① 熱愛, 愛感, 喜愛 ② 愛情, 戀愛
会計	① 會計 ② (算帳) 付款, 付錢 ③ 帳目 ④ (個人的) 預算	① 會計 ② (俗) 算賬, 付錢 ③ 賬目	① 會計 ② (算帳) 付款, 付錢 ③ 帳目 ④ 預算	① 會計 ② (俗) 算賬, 付錢 ③ 賬目
活発	活潑	活潑, 活躍	活潑	活潑, 活躍
犠牲	犧牲	① 犧牲 ② 犧牲品	① 犧牲 ② 為了達到目的而奉獻生命以及其他一切	① 犧牲 ② 犧牲品
深刻	深刻, 嚴重的, 深切	① 深刻 ② 重大, 嚴重	① 深刻 ② 深刻的印象 ③ 嚴重的	① 深刻 ② 嚴重
適當	① 適合, 適當, 合宜, 適宜 ② [俗] 隨隨便便, 馬馬虎虎	① 適當, 適合, 適宜 ② 正好, 正是時候 ③ (用「に」的形式表示) 隨隨便便, 酌情	① 適合, 適當, 合宜, 適宜 ② 隨隨便便, 馬馬虎虎	① 適當, 適合 ② 正好, 正是時候 ③ (用「に」的形式表示) 隨便地, 酌情
反対	① 相反, 反對 ② 相對 ③ 反對	① 相反, 相對 ② 反對	① 相反, 反對 ② 相對 ③ 反對, 敵對, 對抗	① 相反 ② 反對
必要	必需, 必要	必需, 必要	必需, 必要	必需, 必要
表情	表情	表情	表情	① 表情 ② 情況
訪問	訪問, 拜訪	訪問	(収録していない)	訪問

注) 辞典によって、意味項目を立てる際、①, ②, ③, ..., 1, 2, 3, ..., I, II, III, ... などがあるが、筆者によって、①, ②, ③, ... に統一した。なお、同じ意味項目に複数の訳語がある場合、"、" で分ける。

A-1. 一見出し語・一訳語

今回調査した語は同形類義語の中の「日本語に他の意味があるもの」のグループであるので、当然見出し語の日本語は多義的な意味を持つ。このような多義的な意味をもつ語と対応する訳語は複数語になることが予測できる。また、訳語に関して対訳辞典そのものがもつ性質として、玉村(1990: 163)において次のように、述べられている

対訳辞書では、二言語の語の分布や語義のズレが大きく作用するから、A 言語の単語 W が、B 言語の $W_1 W_2 W_3 \dots W_m$ というように、複数語に訳し分けられることが多いので、複雑な様相になりやすく、どんな単語も、対訳辞書では多義的存在になってしまうとさえ言っ

てよい。

以上の二点より、「一見出し語・一訳語」という対応形式は、今回の調査語に特に不適当であることは明らかである。しかし、表4を見てみると、「一見出し語・一訳語」という対応形式の語は少なくない。例えば、「大新」と「永大」の「愛情」、「大新」と「永大」の「活発」、「大新」の「犠牲」、「大新」、「萬人」、「永大」の「表情」、「萬人」と「新時代」の「訪問」の訳語である。これら訳語の提示はおそらく不十分であるので、まずこれらについて検討しなければならない。ここでは、「愛情」と「愛情」との対応関係及び「愛情」の訳語の可能性をみることにする。「愛情」という語はどのように使われているのか、辞典で確認することにする。「広辞苑」(第五版1998)によれば、「愛情」は「①相手にそそぐ愛の気持。深く愛するあたたかな心。「親の—」「—をそそぐ」と、「②異性を恋慕する感情。「—を抱く」との意味がある。このような記述から「愛情」は「②異性を恋慕する感情」としても使われていることがわかるが、①の「相手」は具体的に何を指すのか、あるいはその指す範囲など必ずしも明確ではない。同書の①の例を見ると、「相手」は(親に対して)「子」であることがわかるが、それ以外「相手」は何であるかを窺い知ることはいえない。「相手」の指すものとその指す範囲の実態を知るために、次の例文を見てみよう。

- (1) 学生たちへの先生の愛情は深い。(老師對學生抱著深深的愛心。)
- (2) 母親の子供への愛情。(母親對孩子的關愛。)
- (3) 自分の仕事に愛情を持つ。(熱愛自己的工作。)
- (4) 自然への愛情。(對自然的愛。)
- (5) 母校への愛情。(對母校的愛。)
- (6) 二人が育てた七年間の愛情は冷めてしまった。(兩人培養了七年的愛情竟然淡薄了。)
- (7) 妻への愛情は永遠に変わらない。(對妻子的愛永遠不變。)
- (8) 彼に愛情を抱く。(對他懷有愛戀之情。)

(1)~(8)の用例によると、「相手」は人間だけではなく、事物一般(動物、植物、仕事、ふるさと、自然、母校など)まで指すことがわかる。よって「愛情」は異性及び異性以外の人、さらに事物にも使える意味範囲の広い語である。一方、「愛情」の「相手」は必ず人間しかも異性でなければならない。つまり、「愛情」の意味範囲は「愛情」の②に相当する。しかし、②の意味においても「愛情」はそのまま「愛情」に訳せない場合も少なくない。例えば、用例(7)と(8)の「愛情」は、それぞれ「愛」と「愛戀之情」に分担される。「愛情」と「愛情」は同じ意味を共有する場合でも、例文が異なれば、訳語も違ってくる。以上の例文から「愛情」とその訳語との対応関係を次のように示すことができる。それによって、「愛情」の訳語の多様性が窺え、「愛

情」は「愛情」という一訳語では不十分であることは明らかである。

A-2. 説明形式の訳語

「永大」において「爲了達到目的而奉獻生命以及其他一切」(ある目的のために、その人の生命やかけがえの無いものを提供すること)というような説明形式の訳語が見られる。実はこれはそのまま「犠牲」に訳せるので、説明形式の訳語はできるだけ避けるべきであろう。

A-3. 訳語を用例に活用していない

「愛情」を例にすると、訳語が用例には使われていないものは、「萬人」と「新時代」である。例えば、「萬人」は「熱愛」、「愛護」、「愛情」、「戀愛」などを訳語として提示しているが、すべて用例には用いない。「新時代」は「喜愛」、「愛情」、「戀愛」などの訳語を用例に用いない。使いやすさ及び分かりやすさを前提としている辞典については、少なくとも見出し語の訳語については用例を掲げた方がよいのではないか。

B. 誤訳と不適切な説明

ここでは、「愛情」を例にして誤訳と不適切な説明を見ることにする。まず、「大新」(p. 7)では、訳語「愛情」を提示し、そして同書の唯一の用例及びその訳文として「愛情のこもった言葉(充滿愛情的話)」を示した。用例の一つで「愛情」の意味・用法などを十分表したとは思えないし、その用例の中の訳語「愛情」も不適切と思われる。「愛情のこもった言葉」の「愛情」にぴったりするような訳語がなかなか見付からないので、この用例を中国語にする場合、案外難しい。この場合、「愛情」に近い訳語は「深情」や「關愛」が挙げられるが、少なくとも「愛情」を「愛情」にそのまま置き換えるのは適切とはいえない。「萬人」と「新時代」にも同じような用例が見られ、その訳語として「親切」(親しい。心がこもっている。)を提示したが、これも不適切だと思われる。なお、「永大」では、「愛情に満ちた家庭(充滿着愛情的家庭)」を提示したが、訳語の「愛情」は「愛」に直すべきである。

C. 意味項目の立て方

これら辞典の「深刻」の意味記述の項目の立て方(表4を参照)を見てみると、大きく二つに分けることができる。「大新」では意味項目が一つしか立てられていないが、「萬人」、「新時代」、「永大」では二つあるいはそれ以上の意味項目を立てている。まず、「大新」は「深刻」と「嚴重」を一つの意味項目にまとめている。しかし、「深刻」は「深い、問題の本質にまで達している」という意味である。それに対して、「嚴重」は「重大である」を意味している。「深刻」はプラスの評価であるが、「嚴重」はマイナスの評価である。このように両者の意味の相違は明らかであるので、記述する際それぞれ分けて記述すべきであろう。

D. 用例及び典型的な文型の提示

辞典に求められる条件の一つは、的確かつ豊富な用例があることである。極端に言えば、時に対訳辞典においては、訳語がなくても用例の訳から訳語を見出せるはずなので、用例の提示は重要だと思われる。ここでは、これら辞典の「訪問」を例にして検討する。「訪問」は「目的をもって公式に人に会う場合」から「人と人が一般的な往来をする場合」まで用いることができるが、これらの辞典はこの二つの使い方を分けていないため、用例及び基本文型の提示が不十分である。例えば、『万人』では用例として「家庭を訪問する」、文型として「公式訪問」を提示したが、この二つの「訪問」がそのまま“訪問”に置き換えられるので、「訪問」と「訪問」との相違点は表わせない。一方、『大新』と『新時代』は「訪問」の二通りの使い方の例文を提示したが、意味項目を分けていないため、その使い分けは必ずしも明確なものではない。このように、意味項目を正しく立てなければ、用例及び文型の提示にも影響することを併言したい。

E. 品詞の提示

次の二つの理由によって、品詞の提示が重要だと思われる。一つ目は、品詞が正しく示されなければ、その語の用法及び基本文型の把握に役立てることはできない。もう一つは、同形語では品詞が異なる場合が少なくないので、品詞を正しく提示する必要がある。『永大』では「深刻」は名詞及び形容動詞であると示されている。「深刻」は形容動詞としては使われているが、名詞としての使い方はほとんど見られないので、このような品詞の提示の仕方は誤解を招くおそれがある。

また、中国語を品詞分類することは困難であるので、日華・日漢辞典と異なる中日・漢日辞典の品詞の提示、つまりその見出し語の中国語の品詞分類について少し論じたい。林(2000a)では、中国語の品詞分類は「形態」、「意味」、「職能」の三つの基準を段階に分けて(形態→意味→職能)併用することが有効であると提案した。例えば、“遭到”(不幸に遭う)という語の品詞を判断しようとする場合である。まず、擬辞のようなものが付いていないので、「形態」では“遭到”の品詞を知る手掛かりがない。次に、「意味」では“遭到”が不幸に遭うということを表すので、動詞の性格に近い。しかし、これで動詞として判別することができない。したがって、最後に「職能」で“遭到”という語の品詞を検証する。“遭到”は“56年前、長崎遭到了原子彈的轟炸。”(56年前、長崎は原子爆弾の被害を受けた。)という文において、アスペクト助詞“了”と結合することができる。“了”と結合できるものは、動詞か形容詞である。さらに、“遭到”は“原子彈的轟炸”という目的語をとることができるため、動詞として確定することができる。

4-3. 日華・日漢辞典における日中同形語記述の問題点が生じた原因

以上、日華・日漢辞典における同形語の記述の問題点をいくつか挙げた。なぜこのような問題点が生じたのか。その原因は三つ挙げられる。一つ目は、編纂時に他の辞典を参照した際に、間

違った訳語が援用されてしまうことがあるということである。二つ目は数多くの語を網羅的に扱わなければならないため、同形語にかけられる労力と時間に限界があるということである。三つ目は、日本の国語辞典の影響が強く、ややもすると中国人日本語学習者のニーズに応じ切れない場合がある。三つ目の原因について、日華・日漢辞典の編集事情をみることにする。「萬人」の序文には次のような記述が見られる。

爲達到這個理想，我們在編寫過程中曾參考了許多日本的原文辭典，以及坊間の日華辭典等多達二十餘種。〈この理想を実現するために、われわれは編集に際して多くの日本の国語辞典及び一般に使われている日華辞典など20種あまりを参考にした。〉（訳は筆者）

また、「新時代」の“推薦的話”（推薦の言葉）には、次のような記述が見られる。

編者參考了許多日本《国語辞典》和大陸出版的大中小《日漢辞典》，並根據使用頻度，精選了一般普通詞彙和日本固有的“大和詞彙”以及古老的書寫詞彙，作到面面俱到。〈編者は日本の多くの国語辞典と大陸で出版されたいろいろの日漢詞典を参考され、言葉の使用率から一般用語、和語または古語の書き言葉などを厳選して収録用語のバランスを考えているようです。〉（訳は原文のまま）

こうした記述により、日華・日漢辞典の編集には日本の国語辞典、他の日華辞典及び大陸の日漢辞典を参考にしたことがわかる。「愛情」を例にして、日華・日漢辞典の記述と現行の国語辞典を比べてみると、日華・日漢辞典の記述は国語辞典を参考にするというよりも日本語の記述をそのまま中国語訳していることがわかる。大陸の日漢辞典は別として、日本の国語辞典の使用者は主として日本人であるが、日華・日漢辞典が対象とするのは台湾人である。つまり、両種類の辞典は使用者が異なっている。辞典を編集する際、最も配慮すべきことはその使用者と編纂目的であると考えられる。当然のことながら、使用者と目的によって、記述内容も異なってくる。国語辞典の記述を参考にするのはよいが、国語辞典の記述をそのまま中国語に訳して日華・日漢辞典に持ち込むのは不適當である。

4-4. 日華・日漢辞典における日中同形語のより精密な記述見本

4-2. で挙げた問題点を踏まえて、日華・日漢辞典における日中同形語のより精密な記述は次の条件を満たさなければならないことが分かる。

- (1) 意味項目の立て方をより正確に提示すること。
- (2) 訳語を用例に活用すること。
- (3) 誤訳と不適切な説明を避けること。
- (4) よく使われている例文及び典型的な文型を提示すること。

(5) 品詞を提示すること。

以上の五点のほか、特に同形語の記述については次の項目も入れることにする。

(6) 位相を提示すること。例えば、文章語か日常語かななどを明示すること。

(7) 慣用的結合を提示すること。

(8) 同形語の相違を明記すること。例えば、中国語にない意味・用法などを提示すること。

以下、より精密な記述を筆者の試みとして提示してみよう。なお、囲み線は従来の辞典と異なる筆者の提案によるもので、下線は日本語と対応する中国語の訳語であることを示す。

あいじょう【愛情】(名)㊦① 愛。[關愛・熱愛・愛心]⁹ ☆母親の子供への～/母親對孩子的關愛。☆自分の仕事に～を持つ/熱愛自己的工作。☆学生たちへの先生の～は深い/老師對學生抱著深深的愛心。② 愛情。愛・愛戀(之情)。☆二人が育てた七年間の～は冷めてしまった/兩人培養了七年的愛情竟然淡薄了。☆妻への～は永遠に変わらない/對妻子的愛永遠不變。☆彼に～を抱く/對他懷有愛戀之情。[類義詞(類義語)¹⁰]① 愛。② 恋愛。情愛。慕情。戀情。[其他常用搭配(その他の慣用的結合)] ☆～の・こもった言葉・手紙/充滿愛情的話・充滿愛情的信。☆自然・ふるさと・母校・への～/對自然的愛・對故鄉的愛・對母校的愛。☆親・母・の～/父母愛・母愛。☆～主義者・問題/愛情主義者・愛情問題。☆～の・表現・深さ/愛的表現・愛情深厚。☆～を・抱く・打ちあける・こめる・注ぐ/懷有愛戀之情・表白愛戀之情・貫注愛・貫注愛。☆～に・溺れる・溺ちる/迷戀於愛情・充滿愛。[同形語使用上の留意點(同形語の覚書)] 「愛情」可當「對異性、人、事物等的愛」和「男女間愛慕之情」的意思用、而“愛情”只能用在表示「男女間愛慕之情」的時候。(「愛情」は「異性、人間、事物などにそそぐ愛の気持」と「異性を恋慕う感情」の意味として使えるが、“愛情”は「異性を恋慕う感情」のときにしか使えない。)

5. おわりに

本稿では、同形類義語を取り上げ、同形語の問題点を指摘し、現行の日華・日漢辞典における同形語の記述は必ずしも十分でないことを述べた。そして、より精密な記述方法を試みに提示した。しかし、今回の調査対象は同形類義語の「日本語に他の意味があるもの」に限られ、取り上げた問題点も限られていたため、これから「中国語に他の意味があるもの」と「日中両言語とも他の意味があるもの」も調査し、同形類義語全般の問題点を比較・検討し、辞典の編集に役立てたい。また、本稿では考察ができなかった同種類の日中辞典、中國大陸で出版された日漢辞典、中国語から日本語への中日・漢日辞典との比較については今後の課題としたい。

⁹ 代表的な訳語をまず提示し、それ以外に、対応する可能性が高い訳語(囲み線にあたる)も併せて提示したほうが役に立つと考える。

¹⁰ () の日本語訳は本稿に限って示す。

参 考 文 献

日本語文献

- 荒川清秀(1979)「中国語と漢語——文化庁『中国語と対応する漢語』の評を兼ねて」,『愛知大文学論叢』62, 1-28.
- 荒屋勉(1983)「日中同形語」,『大東文化大学〈紀要人文科学〉』21, 大東文化大学, 17-29.
- 有田忠弘(1959)「日漢辞典の問題点(関西5月例会報告)」,『中国語学』89, 3-18.
- 王永全(1986)「漢日辞典と中日辞典」,『人文論究(関西学院大学)』35-4, 関西学院大学人文学会, 80-93.
- 王蜀豫(1998)「現代国語辞典における同形語」,『新潟大学国語国文学会誌』40, 新潟大学人文学部国語国文学会, 1-10.
- 大河内康憲(1997)「日本語と中国語の同形語」,大河内康憲編『日本語と中国語の対照研究論文集』,くろしお出版, 411-447.
- 国広哲弥(1997)『理想の国語辞典』,大修館書店.
- 周錦樟(1986)「日中漢語対応の問題——文化庁『中国語と対応する漢語』について」,『日本語日本文学』12, 輔仁大学外語学院日本語文学系, 69-89.
- 曾根博隆(1988)「日中同形語に関する基礎的考察」,『明治学院論叢第424号 総合科学研究』30, 明治学院大学一般教育部学会, 61-96.
- 橘純信(1994)「現代中国語における中日同形語の占める割合」,『国際関係学部研究年報(日本文学)』15, 日本大学国際関係学部, 99-115.
- 玉村文郎(1990)「辞書」,玉村文郎編『講座日本語と日本語教育 第7巻 日本語の語彙・意味(下)』,明治書院, 145-175.
- 飛田良文・呂玉新(1986)「『中国語と対応する漢語』を診断する」,『日本語学』5-6, 72-85.
- 文化庁(1978)『中国語と対応する漢語』,大蔵省印刷局.
- 林玉恵(2000a)「品詞分類の基礎から見た日中語彙——中国語の品詞を中心に」,田島誠堂編『開発・文化叢書 35 比較語彙研究の試み 5』,名古屋大学大学院国際開発研究科, 199-211.
- (2000b)「日中語彙における同形語の比較研究——日華・日漢辞典からみた日中同形語の記述」,田島誠堂編『比較語彙研究の試み 6——国際シンポジウム比較語彙研究 II』,名古屋大学大学院国際開発研究科, 79-92.

中国語文献

- 尹学义(2000)「20 世纪的中国日语类双语词书」,辞书研究编辑部编辑『辞书研究』2000 年第 5 期 总第 123 期,上海辞书出版社, 23-28.
- 王永全(1992)「汉日与日汉词典中的同形词误译现象不容忽视」,辞书研究编辑部编辑『辞书研究』1992 年第 2 期 总第 114 期,上海辞书出版社, 68-74.
- 赵雪琴(2000)「学习者错误分析与双语词典编纂」,辞书研究编辑部『辞书研究』2000 年第 4 期 总第 122 期,上海辞书出版社, 84-90.
- 刘富华(1998)「HSK 词汇大纲中汉日同形词的比较研究与对日本学生的汉语词汇教学」,汉语学习编辑部『汉语学习』第六期 总第 108 期, 41-46.